

事業別戦略



ヘルスケア

関連する
マテリアリティ



事業内容

医療IT・機器などのメディカルシステム事業と、バイオCDMO事業^{*1}、ライフサイエンス事業、医薬品事業、コンシューマーヘルスケア事業、2023年4月に設立したCRO事業推進室から成るライフサイエンス領域で構成されています。ライフサイエンス領域では、CDMOと創薬支援を重点事業に位置づけています。

^{*1} Contract Development & Manufacturing Organizationの略。薬剤開発初期の細胞株開発から生産プロセス開発、安定試験、治験薬の開発・製造・市販業の幅広いサービスを製薬企業などに提供する
^{*2} Signify Research調べ

医用画像情報システム
世界シェア

No.1^{*2}

医用画像情報システム
(PACS)「SYNAPSE」



事業環境

機会

高齢化社会の進行によって医療費が増加するとともに、医療従事者の不足に起因する医療現場での過酷な労働環境も顕在化しています。また、がんや希少疾患、新たな感染症など、いまだに有効な治療法が確立されていない疾病が数多く存在しています。それらに対する治療・予防手段として、副作用が少なく、高い効果が期待できるバイオ医薬品が近年注目を集めています。世界の医薬品市場の約30%を占めるまでに成長しており、生産プロセスの開発や製造を受託するCDMO事業の市場規模も年率10%程度で拡大を続けています。

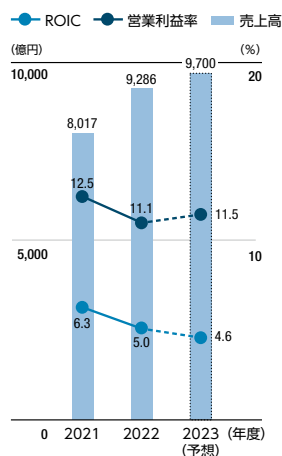
リスク

医療制度改革による予測できない大規模な医療行政の方針変更や、医療機器における法規制の強化、創薬難易度が高まる中での製薬企業における新薬開発の延期・中止や経営環境の変化、技術革新によるバイオ医薬品のプロセス開発・製造受託市場の競争激化などがあげられます。

競争優位性

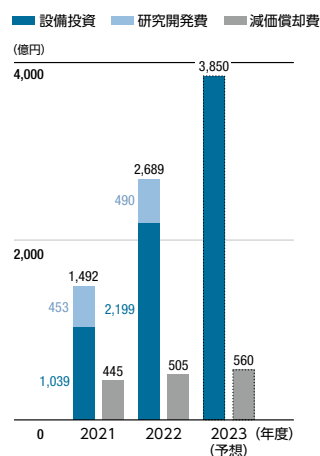
- 診断に適した画像を提供するための画像処理技術・AI技術
- アンメットメディカルニーズに応える医薬品の開発を可能にする高度な化合物合成・設計力やナノテクノロジー
- バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託の分野で生かせる一定条件製造技術や品質管理技術などの高い技術力
- 世界トップレベルのiPS細胞の初期化・分化誘導技術や培地の開発力

セグメントの業績推移

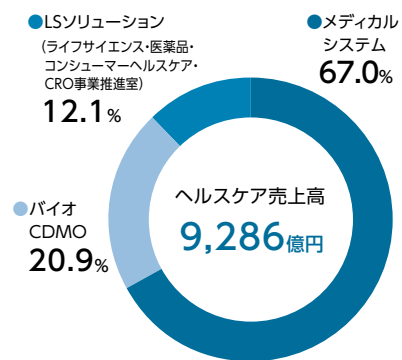


^{*} 研究開発費はセグメント別予想を開示していません。
^{*} 2023年度のROICは当初通期予想(2023年5月公表)に基づくものです。

設備投資・研究開発費/減価償却費



事業別売上高比率(2022年度)



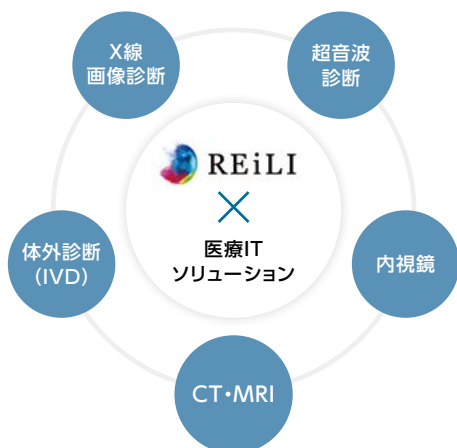
^{*} 2023年度より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年度の情報をリスタートしています。

メディカルシステム

成長戦略

富士フィルム独自の画像処理技術やAI技術を生かし、X線画像診断、内視鏡、超音波診断、体外診断 (IVD)、医療ITソリューションなど幅広い領域でビジネスを展開し、2021年にはCT・MRIなどを主力製品に持つ富士フィルムヘルスケア (日立製作所の画像診断関連事業を承継) がグループに加わりました。医療ITを事業の中核に据え、世界トップシェアを誇る医用画像情報システム (PACS) [SYNAPSE] を基盤に、各製品群を連携させることで、今後も医療現場のニーズに応えるさまざまな製品・サービスを開発・提供し、世界の医療の発展と人々の健康の維持増進に貢献していきます。

医療格差の解消というグローバルでの大きな課題に対しては、インドの健康診断サービス事業 [NURA] や携帯型X線撮影システムを採用した結核検査など、当社独自のソリューションを通して、その解決に貢献していきます。



事業戦略

メディカルシステム事業

当社の強みであるAI・IT技術と、幅広い製品ラインアップの融合により新たな価値を創出し、世界の人々の健康な暮らしを支えていく。

- AI技術ブランド「REiLI」の下、医療従事者に新たな価値を提供するAI・IT技術の開発を4つの軸「高画質化」「臓器セグメンテーション」「コンピューター診断支援」「ワークフロー効率化」で推進
- 富士フィルムヘルスケアとの販売および開発面でのシナジー創出
- 内視鏡事業における診断ソリューションビジネスの拡大
- クラウド型AI技術開発支援サービス「SYNAPSE Creative Space」の本格展開
- Women's Healthソリューションブランド「INNOMUSE (イノミューズ)」を立ち上げ、幅広いポートフォリオを生かしたソリューションで、さまざまなライフステージで健康と向き合う女性を支援

領域	画像診断システム										医療IT		IVD
製品分類	CT	MRI	X線透視	X線撮影装置	マンモグラフィ	回診車	DRパネル/CR	骨密度測定	超音波システム	内視鏡	HER/HIS	PACS	
富士フィルム													
富士フィルムヘルスケア													

TOPICS Women's Healthソリューションブランド「INNOMUSE」を立ち上げ

富士フィルムグループは、乳がん検査などのプレストイメー징領域向けに、デジタルX線撮影装置・医療IT・超音波診断装置・MRIなど幅広い製品ラインアップを組み合わせ、医療現場のニーズにあったソリューション提案を強化しています。また、より付加価値の高いソリューションの提供を目指し、グループが持つ技術を結集した製品開発を加速させています。今後は、これらの取り組みをプレストイメー징領域から産科・婦人科での検査、骨密度検査などの女性向け医療 (Women's Health) 領域に拡大。Women's Health向けソリューションを「INNOMUSE (イノミューズ)」のブランド名で広く展開して、女性の健康の維持増進に貢献していきます。

ライフサイエンス

成長戦略

中長期的に高い成長が見込めるバイオCDMO事業・ライフサイエンス事業への設備投資を継続するとともに、最先端のバイオ医薬品の創出を支援する企業としてワンストップで価値を提供し、事業拡大を目指します。

事業戦略

バイオCDMO事業



高品質なバイオ医薬品の安定供給や、先進医療分野である細胞・遺伝子治療薬のプロセス開発・製造受託を通じて、医療アクセスの向上やアンメットメディカルニーズへの対応に貢献する。

- 欧米拠点で生産能力の増強を進めている抗体医薬品に、米国テキサス・ボストン拠点および英国拠点で強化している遺伝子治療薬や、米カリフォルニア拠点で始動した細胞治療薬を加え、最先端治療分野での製造受託ビジネスをさらに拡大
- 国内に富士フィルム・ダイオシンス・バイオテクノロジーズ・ジャパンを設立。欧米中心に多くの受託実績を蓄積してきたFUJIFILM Diosynth Biotechnologies (FDB) と連携して、成長する日本・アジア市場におけるバイオ医薬品の開発・製造受託ビジネスを拡大
- 培養から精製まで抗体医薬品原薬の一貫生産が可能な商業用連続生産システム、当社独自のプラスミド技術を用いたバイスペシフィック抗体の高生産性細胞株構築など、各モダリティにおいて業界トップレベルの高生産性技術の確立による差別化
- 生産プロセス開発～原薬製造～製剤化・包装を、少量から大量生産まで一貫して受託できる「ワンサイト・ワンストップ」体制を整備

事業戦略

ライフサイエンス事業

(創薬支援、細胞治療薬プロセス開発・製造受託)



バイオ医療領域への積極的な事業展開により、製薬業界を支援する。

- 創薬支援分野において、「iPS細胞を中心とする細胞」「培地」「サイトカイン」「試薬」をセットでグローバルに供給・販売
- iPS細胞技術・ノウハウを生かした細胞治療薬分野においては、提携パートナーと治療製品の開発を加速させるとともに、開発・製造受託ビジネスを推進
- 米国・欧州・日本のグローバル生産体制の拡充を推進し、供給力や顧客サポート力を強化



医薬品事業



独自のDDS(ドラッグデリバリーシステム)技術や製造設備・インフラなどを活用し、医薬品産業のさらなる発展に貢献する。

- ナノ分散技術や解析技術、プロセス技術などを活用し、リポソーム製剤の開発を推進
- ペニシリンなどの抗菌剤の製造受託や、脂質ナノ粒子製剤の製造設備・インフラを活用した、次世代医薬品である核酸医薬品やmRNAワクチンのプロセス開発・製造受託ビジネスを展開
- 当社国内初のバイオCDMO拠点を富山県に新設することを決定。平時は顧客ニーズに応じたバイオ医薬品を製造し、パンデミック時にはワクチン製造へ切り替えられるデュアルユース設備を導入することで、事業成長を加速させるとともに、日本政府が主導する、ワクチンの国内生産体制強化の一翼を担う

事業戦略

コンシューマーヘルスケア事業

(化粧品・サプリメント)

より多くのニーズを捉えた独自性の高い商品を提供し、人々の美容と健康に貢献する。

- 化粧品分野では、リポソーム技術を化粧品へ応用した「アスタリフト ザ セラム」シリーズの立ち上げなど、独自性の高い機能性化粧品を展開し、「アスタリフト」のブランド価値を向上させるとともに、幅広いニーズに対応
- サプリメント分野では、「メタバリア」シリーズなどの機能性食品を中心に、健康の維持増進ニーズの高まりに対応



TOPICS 創薬支援CROビジネスに本格参入

近年、製薬企業やバイオベンチャーは、新薬開発の成功確率の向上と創薬プロセスの効率化を図るべく、研究開発の初期段階から、高度な解析技術・ノウハウを有するContract Research Organization* (以下、CRO)と協業するケースが増えています。当社は、ライフサイエンス領域の事業成長を加速させるため、ライフサイエンス領域の事業横断的な全体戦略を推進する「ライフサイエンス戦略本部」の下に「CRO事業推進室」を新設し、創薬支援CROビジネスに本格参入します。同推進室にて創薬支援CROビジネスの全体戦略を立案。バイオ関連技術の研究開発を行う「バイオサイエンス&エンジニアリング研究所」や、創薬の豊富な知見を有する富士フイルム富山化学、試薬ビジネスなどで培った強固な国内販売網を持つ富士フイルム和光純薬といった当社グループのリソースを結集させ、まずは国内において創薬支援CROビジネスを展開していきます。

具体的には、iPS細胞のリーディングカンパニーであるFUJIFILM Cellular Dynamics社が開発・製造するヒトiPS細胞由来分化細胞と、幅広い製品開発で蓄積してきたAI(人工知能)技術を組み合わせた、医薬品候補物質の有効性・安全性評価および作用機序解析のサービスを提供。ヒト生体への作用を再現し高精度に評価・解析できるという特長を生かし、マウスなどを用いた動物実験を削減したいという顧客ニーズに応じていきます。また、遺伝子治療薬などのサンプル作製や、同治療薬の分子構造の解析を受託。さらに、がんや感染症の分野を中心に培ってきた、医薬品の研究開発の知見を生かし、創薬コンサルティングも行っていきます。

※ 薬効評価や安全性試験などのサービスを提供し、製薬企業やバイオベンチャー、アカデミアなどが行う医薬品の研究開発を支援する。

マテリアルズ

関連する
マテリアリティ



事業内容

AI・IoT時代の生活を支える通信機器、センサー、次世代ディスプレイなどに向けた高性能材料や、グラフィックコミュニケーションの製品・サービスを提供しており、電子材料事業、ディスプレイ材料事業、産業機材事業^{※1}、ファインケミカル事業、グラフィックコミュニケーション事業、インクジェット事業で構成されています。

※1 記録メディア事業は、2023年4月に産業機材事業と統合しました。
※2 富士フィルム調べ



偏光板保護フィルム
世界シェア

No.1^{※2}

イメージセンサー用
カラーレジスト世界シェア

No.1^{※2}

事業環境

機会

車載用途などTV・モニター以外での液晶や有機EL向けディスプレイ材料の需要が拡大しているほか、5Gや自動運転、生成AIの普及などによる半導体市場の拡大で半導体関連材料の事業機会が広がっています。また、オンデマンド印刷の増加によるデジタルプリンティングの需要も拡大しています。

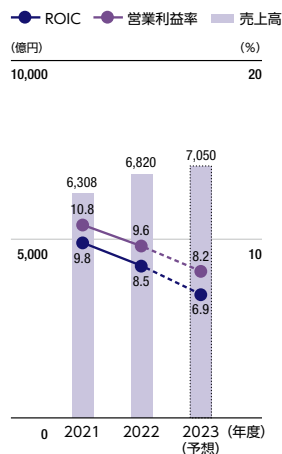
リスク

資源価格高騰に伴う原材料費の高騰や、新技術の開発・実用化による代替素材との競争激化、オフセット印刷市場における想定を上回る需要の減少などがあげられます。

競争優位性

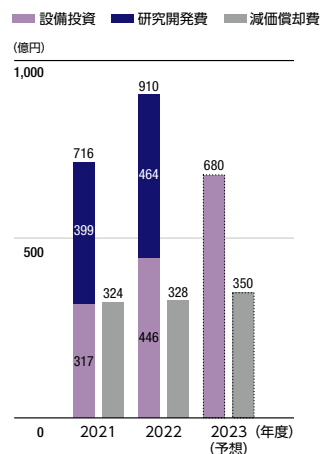
- フィルムに高い機能性を付与するための機能性分子技術などの先端技術
- 薄膜化や大型化などに対応できる高度な製膜および塗布技術
- コスト競争力と供給安定性
- 迅速で的確な製品の処方設計力と開発力、顧客に隣接したグローバルな生産供給体制

セグメントの業績推移

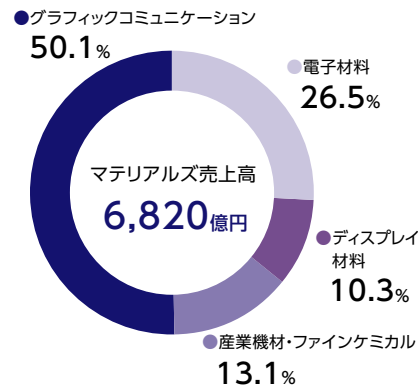


※ 研究開発費はセグメント別予想を開示していません。
※ 2023年度のROICは当初通期予想(2023年5月公表)に基づくものです。

設備投資・研究開発費/減価償却費



事業別売上高比率(2022年度)



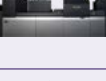



※ 2023年度より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年度の情報をリスタートしています。

成長戦略

高機能材料領域における事業横断的な戦略機能を担う「高機能材料本部」の下、光の波長コントロールなど各事業で培ってきた技術を融合し、5Gなどの高速通信網の整備やセンサー・通信デバイスの高機能化といったさまざまな分野でのDX加速に貢献する新規ビジネスを創出し続けます。また、2023年7月1日に設立した「マテリアル生産本部」、ならびに国内生産子会社5社を統合して設立した「富士フイルムマテリアルマニュファクチャリング」という新組織・新体制の下で連携を強化し、幅広い技術・技能を有する人

事業戦略

高機能材料群	
電子材料事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体の微細化・高積層化を実現する幅広い製品(レジスト、CMPスラリー、ポリイミド、買収により新たに加わるプロセスケミカルなど)と当社技術を掛け合わせることで、顧客課題の解決に資するトータルソリューションを提供 ● 広範囲な波長の電磁波(光)をコントロールする材料群[Wave Control Mosaic]の開発を通じて、イメージセンサーの高画素化、高感度化、高機能化に寄与 ● グローバルな生産拠点への積極的な設備投資による供給体制の強化
ディスプレイ材料事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有機EL向け材料の高シェア維持 ● 液晶パネル向けのTAC製品における強いマーケットポジションの維持 ● 当社の強みである薄膜・積層塗布技術を生かした差別化製品の開発と導入 ● 車載ディスプレイやスマートグラス向けなど新規用途材料のビジネス拡大
産業機材事業 <small>(記録メディア事業を含む)</small> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5G/AI時代のデータ増大を支えるストレージテープ拡販 ● タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」など、当社独自技術を活用した高機能製品の拡販 ● 新規ビジネス(二次電池/光センサー/通信関連材料)創出
ファインケミカル事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 成長性の高いライフサイエンス、エレクトロニクス、環境・エネルギーの3分野を重点化し、新規ビジネス(高機能ポリマー/機能性色材/電池材料など)を創出 ● 「フロー合成」などの革新的製造プロセスにより、環境負荷低減にも貢献
グラフィックコミュニケーション	
グラフィックコミュニケーション事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタルプリンティング: 富士フイルムと富士フイルムビジネスイノベーションの統合シナジーによって商業印刷領域を中心にデジタル印刷機のグローバル展開、ブランドオーナー・印刷業向け各種DXソリューションの提供を加速 ● アナログプリンティング: オフセット印刷プレートについて有処理版から無処理版へのシフトを進めており、環境負荷の低減に貢献
インクジェット事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成長市場(商業印刷/パッケージ)に対し、高精度・高生産性インクジェットプリンター用ヘッド、食品安全対応の水性顔料インク、および顧客要望に応じたヘッド・インクを組み合わせたカスタムシステムの開発・導入・拡充

材を生かしたモノづくり力のさらなる向上と応用展開を図り、売上・利益の拡大を図ります。

グラフィックコミュニケーションでは、商業印刷・パッケージ印刷を中心に富士フイルムが有するグローバルな顧客基盤と、富士フイルムビジネスイノベーションの販売力、技術・製品力を組み合わせ、オンデマンドによるデジタル印刷機の全世界での拡販、ブランドオーナー・印刷業向け各種DXソリューションの提供、および刷版材料分野における販売や生産の効率化を進め、さらなる収益性の改善を加速していきます。

TOPICS 電子材料事業：半導体用プロセスケミカル事業の買収

当社は、2023年5月10日、米国Entegris社のグループ会社で半導体用プロセスケミカル事業をグローバルに展開するCMC Materials KMG Corporation(本社：米国テキサス州 以下、KMG社)の発行済全株式を7億米ドルで^{*1}取得する株式売買契約を締結^{*2}しました。

半導体用プロセスケミカルは、半導体製造の洗浄・乾燥工程で異物を除去したり、エッチング工程^{*3}にて金属や油脂などを取り除くために使用する化学薬品で、半導体製造プロセス向けの基幹製品です。現在、半導体の高性能化に伴って、半導体の微細化・多層化が進み、製造プロセスがより複雑化しています。このような中、半導体用プロセスケミカルの使用頻度が加速的に増え、その市場は年率11%^{*4}で成長しています。

今回の買収を通じて、KMG社の幅広い半導体用プロセスケミカルを獲得。半導体製造プロセスを広くカバーする製品ラインアップで総合提案力を高め、顧客の製造プロセスの課題解決を図っていきます。また、欧米での製造拠点の拡充に加え、当社の半導体材料分野では初めてとなる東南アジアでの製造拠点の取得で、より強固でグローバルな製造体制を構築し、サプライチェーンの強靱化に貢献していきます。さらに、KMG社の高い精製技術と、当社が持つ、幅広い半導体材料を開発・製造できる高度な研究開発力・品質保証力などを組み合わせ、より高純度化した半導体用プロセスケミカルなど最先端ニーズに対応した半導体材料を開発・提供することで、半導体のさらなる高性能化に寄与していきます。

※1 買収金額は、買収完了時点の対象会社の現預金、有利子負債および運転資本などを考慮し確定するため、変動する可能性があります。なお、買収完了時期は、クローリング条件の充足を前提とし、2023年中を予定しています。

※2 当社と、Entegris社の子会社であるCMC Materials LLCで締結しました。

※3 シリコンウエハーに露光装置で回路を転写した後、化学薬品の腐食作用を利用して、不要な金属膜や酸化膜などを削り取って半導体回路を形成する工程。

※4 2021年から5年間の年平均成長率。米国調査会社[Linux]の半導体材料レポートより。

ビジネスイノベーション

関連する
マテリアリティ



事業環境

機会

サイバー攻撃の脅威やリモートワークの普及などを背景にした、セキュリティ・ネットワークなどを強化したオフィス・ITインフラ環境の構築・運用支援ニーズが高まっています。また、オフィス業務のDX・生産性向上を実現するAIやクラウドを活用した業務ソリューション・サービス市場も拡大しています。

リスク

ペーパーレス化の流れやリモートワークの普及によるオフィスでのプリントボリュームの長期的な減少傾向のリスクがあげられます。

競争優位性

- 日本およびアジア・オセアニア地域における強固な直販体制を強みにした優良な顧客基盤
- 複雑化・多様化するお客さまの経営課題の解決を支援できる確かな営業力、課題解決のためのソリューション・サービスのラインアップとそれを支えるドキュメント関連の独自技術
- オフィスソリューション事業を通じて蓄積した、各業種の業務プロセスへの精通
- 複合機やプリンタービジネスを通じて、大手市場からSMB^{※4}市場まで幅広いお客さまとの強固な信頼関係

※4 Small to Medium Size Business

事業内容

複合機・プリンターなどのオフィス機器・消耗品を提供するオフィスソリューション事業と、システムインテグレーションやクラウドサービス、複合機管理ソリューション、基幹業務プロセスのBPO^{※1}、ITO^{※2}などにより、お客さまのDX・働き方改革を通じた経営課題の解決に貢献するビジネスソリューション事業で構成されています。

※1 ビジネスプロセスアウトソーシング
※2 ITアウトソーシング

※3 富士フィルムビジネスイノベーション調べ



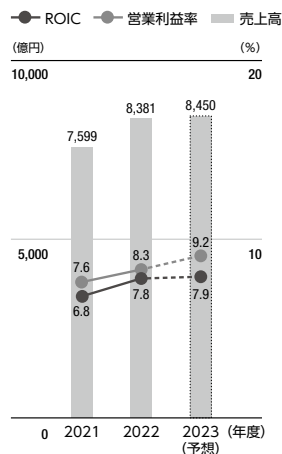
[Apeos C7070]

A3カラー複合機
アジア・パシフィック地域に
おける販売台数シェア

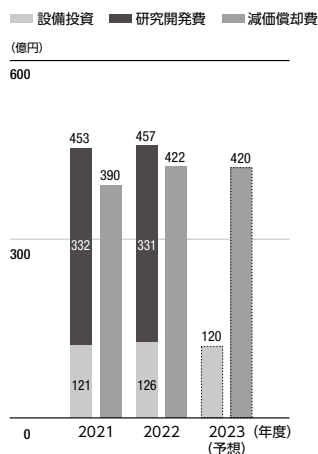
No.1^{※3}

ドキュメントハンドリング・ソフトウェア
[DocuWorks]
国内外累計ライセンス数 **800万超**

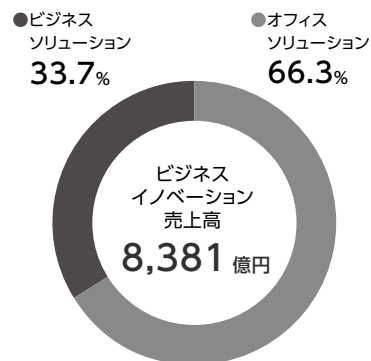
セグメントの業績推移



設備投資・研究開発費/減価償却費



事業別売上高比率(2022年度)


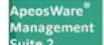





※ 研究開発費はセグメント別予想を開示していません。
※ 2023年度のROICは当初通期予想(2023年5月公表)に基づくものです。

成長戦略

オフィスソリューション事業では、富士フイルムブランドの新製品の拡充と新たなOEM供給を含むグローバルでの拡販をさらに進めていきます。ビジネスソリューション事業では、業種・業務ソリューションの拡大に加え、基幹DXソリューションの拡大や業務改革を実現するBPOサービス、ITインフラ環境の構築・運用を支援するITOサービスの展開などによって、持続的な成長と事業ポートフォリオの変革を加速します。

ソリューション・サービスのさらなる強化による成長加速

お客さまが期待する価値 CHX (Customer Happy Experience)	ITサービスプロバイダーへの進化 (既存ソリューション/サービスの拡充)	お客さまコア業務支援への拡大 (新規事業開発)
DX (Digital Transformation) デジタルによる事業変革の実現	自社ソリューション強化  	MPSとITOの融合による IT環境全体のマネージド サービスへの進化
DX (Digitalization) 業務のデジタル化による 生産性向上	業種/業務 ソリューション拡大 	基幹ソリューション ビジネスの展開 
DX (Digitization) 情報のデジタル化による 業務効率化	パートナー強化による 商材の拡充	Asia-Pacificでの ソリューション・サービスの 本格立ち上げ 
オフィスのインフラ としてのMFP活用	MPS/プリントソリューション維持拡大	新規ビジネス開発 (M&A含む)

※ MPS (Managed Print Service) : オフィスの出力環境を最適化し、コスト管理やセキュリティ、ガバナンスの維持強化を行うサービス
 ITO (IT Outsourcing) : IT戦略の立案とその戦略に基づいたIT環境の導入から運用・管理までを支援するサービス
 BPO (Business Process Outsourcing) : 自治体・公共機関/企業向けに基幹業務プロセスの役割代行を提供するサービス

お客さまにワンストップのDXサービスを提供し、DXの先にあるお客さまの成功に貢献する「CHX (Customer Happy Experience)」を実現することで、ビジネスイノベーションパートナーとして成長していきます。

ITサービスプロバイダーへの進化

Bridge DX Library

建設業や製造業、医療機関などの6業種および業種共通の電子帳簿保存法やインボイス制度対応、セキュリティ強化等の業務課題ソリューションをパッケージで提供。中堅・中小企業向けに現在146種類のラインアップで展開しています。

IT Expert Services

ITの運用管理から、利用環境改善まで、幅広く支援するITOサービスです。お客さまのIT環境に合わせてサービスメニューを柔軟に組み合わせることが可能で、PC1台から契約できます。

お客さまコア業務支援への拡大

Microsoft Dynamics 365

「Fit to Standard」の考え方にに基づき、お客さまの従来の業務プロセスを、導入するシステムに効率的・効果的に合わせていく業務改革をサポートします。ノウハウの詰まった業務プロセステンプレートを、Business Process as a Serviceとしてクラウド上から提供することで、スピーディな導入を実現します。

RIPCORD

ロボット技術を活用して大量の紙文書を高速で電子化するとともに、OCRにより各文書の属性情報を抽出・付与。さらにデータ活用環境の構築までトータルで支援することで、お客さまのDX推進に貢献します。

TOPICS 基幹ソリューションビジネスのグローバル展開

ITサービス企業MicroChannel Services Pty. Limitedとそのグループ会社の株式を取得、2023年3月1日より、社名を変更し、当社グループの新会社(以下、MicroChannel社)としてスタートさせました。

MicroChannel社は、オセアニア地域において、Microsoft Dynamics 365等の基幹システムの販売・導入支援を主業とし、中堅・中小企業向けではトップクラスの実績を持つ企業です。今回の買収は、基幹システムビジネスのグローバル展開を本格化させるものです。今後当社は、MicroChannel社の豊富な経験を有するIT人材と高度な技術力を生かし、当社グループの既存事業とも連携するなど、お客さまへの価値提供を拡大するとともに、ビジネスソリューション事業の成長を加速していきます。



FUJIFILM MicroChannel Services Pty Ltd CEO

Brett Matthews

FUJIFILM MicroChannel Services CEOからのメッセージ

当社は、ビジネスソリューション事業の中核を担うとともに、世界中のお客さまから信頼されるテクノロジー・パートナーとなることを目指しており、経営統合プロセスとDX戦略の実現に向けて積極的に注力しています。富士フイルムグループが築く優れた顧客体験をベースに、当社が誇る多様なソリューションを各ソリューション分野の専門チームが導入から運用までワンストップで提供し、基幹システムの販売・導入支援事業のグローバル展開を強化していきます。

イメージング

関連する
マテリアリティ



事業環境

機会

イベントや旅行などの需要が回復し、インスタントフォトシステムを始めとするプリントビジネスやデジタルカメラの需要が順調に伸びています。また、IoT化や映像の4K/8K化によるレンズ需要の増加、防犯・防災への意識の高まりによる監視カメラシステム市場の成長により事業機会が拡大しています。

リスク

ハイエンドミラーレスデジタルカメラ市場の競争環境の激化、スマートフォンのカメラ性能向上によるデジタルカメラ需要の減少、環境関連の法規制強化、地政学的リスクなどによるサプライチェーンの混乱などをリスクとして認識しています。

競争優位性

- 独自性を追求した特長ある製品を継続的に生み出し続ける技術開発力
- 魅力的な製品を支える高度な技術
(感光材料・光学・画像設計・精密加工・組立技術)
- ユーザーニーズを掘り起こし、先取りする商品企画力
- 入力(撮影)から出力(プリント)までのサービスを提供できる総合力
- リーディングカンパニーとしての強固な市場ポジション
(グローバルなブランド力とマーケティング力・営業力)

事業内容

カラーフィルムやインスタントフォトシステム(INSTAX“チェキ”シリーズ)、プリント機器、カラーペーパー、写真プリントサービスなどを提供する消費者イメージング事業と、超高画質の「GFXシリーズ」や小型・軽量・高画質の「Xシリーズ」などのハイエンドミラーレスデジタルカメラ、放送・シネマ用レンズ、監視・工業検査用レンズ、遠望多目的カメラ、プロジェクター、デジタルサイネージなどを提供するプロフェッショナルイメージング事業で構成されています。

インスタントフォトシステム「チェキ」
グローバル累計販売台数

5,000万台以上 [INSTAX mini 12]



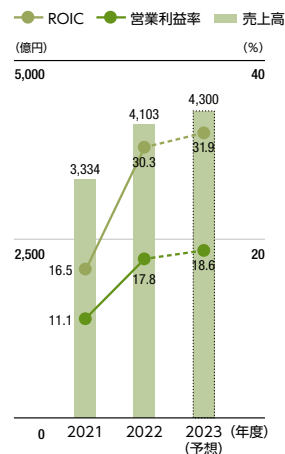
新開発

1億2百万画素
高速センサー搭載

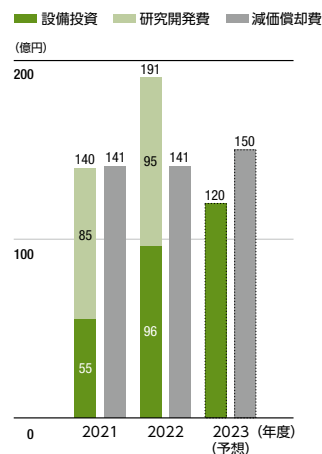
ミラーレスデジタルカメラ
[FUJIFILM GFX100 II]



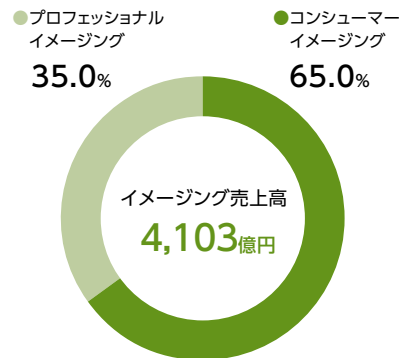
セグメントの業績推移



設備投資・研究開発費/減価償却費



事業別売上高比率(2022年度)



※ 研究開発費はセグメント別予想を開示していません。
※ 2023年度のROICは当初通期予想(2023年5月公表)に基づくものです。

成長戦略

入力(撮影)から出力(プリント)までイメージング領域を幅広くカバーするユニークな製品群が、グローバルで強固な市場ポジションを確立しています。インスタントフォトシステム「INSTAX“チェキ”」やハイエンドミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」は、最先端の技術に裏打ちされた魅力的な新製品を継続的に提供していくとともに、スマートフォン用アプリの展開やビジネス用途の提案などを進めることで新たなビジネス領域を開拓しています。写真プリントサービスなどのプリントビジネスではスクールフォトやウエディングフォトなど、コロナ禍から回復した需要に確実に応えると同時に、富士フィルムビジネスイノベーションとの連携により、写真用に画質を改良したトナー方式プリンターを開発導入し、ドライ・プリンティング分野の拡大にも注力していきます。また、プロジェクター・遠望多目的カメラなどのBtoB新規分野への展開や、社会インフラ画像診断サービス「ひびみつけ」といった画像点検ソリューションビジネスなど、国境監視や自然災害、インフラ設備の遠隔点検等、社会課題の解決に貢献していきます。

事業戦略

コンシューマー イメージング事業



- INSTAX“チェキ”は、多様な新製品とアプリの投入、異業種との協業で、さまざまな楽しみ方を提案しユーザー層を拡大
- スマートフォンからの旺盛なプリント需要に対し、インクジェットやゼログラフィーなど環境に配慮したドライシステムを拡充

プロフェッショナル イメージング事業



- 独自の色再現技術による卓越した画質と小型軽量を実現するハイエンドミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」を展開
- 監視・計測分野やデジタルサイネージ分野での「画像・映像ソリューションビジネス」を推進

TOPICS 発売25周年を迎えた「INSTAX」シリーズ

1998年の発売以来、日本で“チェキ”の愛称で長く親しまれているインスタントカメラ「INSTAX」は、大切な瞬間をその場でプリントして残せるだけでなく、想いを伝えられる新しいコミュニケーションツールや自己表現ツールとして支持されています。現在、欧米・中国・東南アジアなど、世界100以上の国・地域の若い世代を中心に、多くの方にご愛用いただいています。

さらに、デジタル技術を取り入れたハイブリッドカメラやスマホの画像をその場で簡単にプリントできるスマートフォン用プリンターのラインアップも拡充し、ユーザー層を拡大してきました。2022年度は、スマホプリンター2機種（「INSTAX mini Link 2」「INSTAX SQUARE Link」）を発売し、イメージング事業の業績に大きく貢献しました。

開発においては、従来のモノの販売を通じた「機能価値」の提供から、DXによる新しい製品・サービス、新しいビジネスモデルを通じた「利用価値」の拡大と最適化に取り組み、「INSTAX」ビジネス全体の成長を加速させてきました。また、商品を企画する際は初期段階から、商品企画・デザイン・開発のチームが丸となり取り組んでいるため、イノベティブでユニークながら高品質な製品を開発できています。

今後も、唯一無二の価値を提供するエンターテインメントブランドとして、アナログなプリントとデジタル技術の組み合わせによって新たな価値を生み出し、心の豊かさや人々のつながりを強める製品・サービスを継続的に提供していきます。

「INSTAX mini Link 2」開発担当から一言

チェキプリントは「アナログ感」や「モノ感」「独特の質感」を特徴とし、Z世代を含む若年層を中心に「唯一無二のリアルなコミュニケーション」を生むツールとして支持されています。スマホプリンター「INSTAX mini Link 2」はスマホに保存した画像を簡単にチェキプリントにできるため、デジタル製品でありながら、アナログ感を楽しめる点が魅力の一つです。私は商品企画チームの主担当として、コンセプト・仕様・機能の方向性を見定め、商品化を推進する役割を担ってきました。市場状況や競合製品の特徴、ターゲットのニーズといった多様な観点での分析と、ユーザーの生の声も開発に生かし、「遊べる」スマホプリンターとなるようこだわりました。お客さまに満足いただくために、これからも商品の魅力を伝えていきます。



富士フィルム株式会社
イメージングソリューション事業部
コンシューマーイメージンググループ
望月 薫子